



公益財団法人SAJ

# SAJ Farm 通信

vol.51  
2014年 10月号

公益財団法人

School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## 社会見学

今月はスタッフと社会見学に行ってきましたので、その報告をさせていただきます。

10月3日にスタッフ全員を連れて日帰りでプノンペンに行ってきました。目的は①SAJ Farm で日々行っていることがその後どうなっているのかを理解してもらうこと。②特に最近頑張っていて作業してくれているので、その慰労、です。

スタッフの大半は一度もプノンペンに行ったことがないということだったので、非常に楽しみにしていたようです。この日のために服を新調し、意気揚々とプノンペンに出発しました。車はツアーの時など、いつもお世話になっているタクシー会社からチャーターしました。移動中は車につけられていたテレビから流れる映像を夢中になってみていたのですが、プノンペンに着いたあたりから車酔いでダウンするスタッフが複数発生。これから見学という前に少しはしゃぎすぎたようです。

プノンペン到着後、まず初めにコーヒー粕をいただいている日系のコーヒー屋さんの作業場に行きました。ここでは1日約200Lのコーヒーを製造していることや出たコーヒー粕を農場に散布していることを伝え、折角なのでこのコーヒーをスタッフに飲んでもらいました。コーヒーを美味しく飲むスタッフもいれば、車酔いでそれどころではないというスタッフもいました。その後、レモンガラスの出荷先である日系の胡椒屋さんに行き、

このお店でレモンガラスを真空に密封していただいて日本に運んでいることを伝え、密封した現物をお店の方に見せていただきました。スタッフたちは自分たちが作業して作ったものがこうして日本に行くのかと、非常に興味を持って見ていました。その後日系のショッピングモールへ、プノンペンが初めてのスタッフには大型ショッピングモールは当然初めてであり、恐る恐る中を見ていました。ショッピングモールでは、まず食品売り場に行き、農場で栽培しているお米や野菜がいくらかで売っているのかを見、それらのものがショッピングモールでは思いのほか高く売られていることにスタッフ全員驚いていました。



プノンペンに行くということで、髪形や服装をびしっと決めていきます。



ツアーの時などいつもお世話になっているいつも気さくなドライバーさん

その後、この社会見学最大のイベントである日系のレストランで自分たちのレモングラスで作ったレモングラスティを飲みながらの食事。日本食はもちろん初めてなので、食べやすいであろうフライドポテト、から揚げやカンボジア人に人気のピザ、そして日本食の寿司、お好み焼きなどを食べました。スタッフは遠慮がちに食べていましたが、それでも美味しそうに食べていました。食べながら、今後はレストランに野菜も出荷できるようにしていきたいことを伝えました。

食事の後はゲームセンターでゲームをしました。スタッフは勝手が分からないので始めはおどおどしていましたが、エアホッケーを皆でやったところ大盛り上がり、後日、皆ゲームセンターが一番楽しかったと言っています。

今回の社会見学では車酔いなどのトラブルもありましたが、二つの目的を達成することが出来、その後スタッフの作業への取り組みもより良くなっているように感じます。スタッフには今後も作業を頑張ってもらってまたプノンペンに行こうという話しをしています。スタッフは独立記念塔のことやポルポトのことについてあまり知らないようなので、次回行く時は酔い止めの薬をあらかじめ飲み、カンボジアの歴史が分かるような場所に行って自分たちの国について理解を深めてくれればと考えています。

SAJ Farm は就労支援が最大の目的です。日々の作業や今回のような見学を行い、自分たちがやりたいことは何か、やるべきことは何かをスタッフ自身で考える機会を作り、将来的にはスタッフ自らの意思で楽しく仕事に取り組めるようになってくれればと思います。



ショッピングセンター内をスタッフは落ち着かない様子で見学しました。



野菜売り場を見学。普段食べているものや農場で栽培しているものがどのように売られているか興味津々でした。



スタッフ皆家でお米を作っているの、お米売り場の関心も高かったです。

## 編集後記

スタッフと社会見学に行き、スタッフがいろいろなものを見て考えるきっかけとなって欲しいと思うと同時に、私自身もっと多くのことを知る努力をし、それを伝えていく努力が必要だと感じました。せっかくカンボジアで働くという貴重な経験をさせていただいているので、より多くのことを学び、今後活かしていきたいと思っています。

早藤